



ブラジルの政策金利の引き上げについて

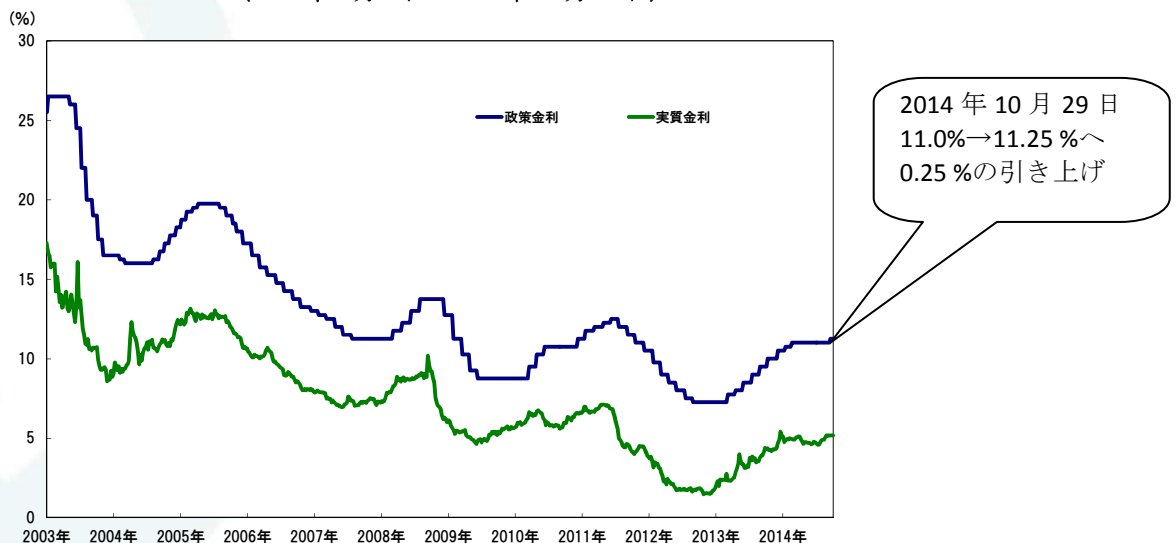
ブラジル中央銀行は、現地 2014 年 10 月 28 日および 29 日に COPOM（定例金融政策委員会）を開催し、Selic（政策金利）を 11.0%から 11.25%に引き上げることを決定しました。政策金利の引き上げは、今年 4 月以来、4 会合ぶりとなりました。市場では、政策金利は据え置きとの予想でした。8 名の理事で構成される政策委員会で、利上げに賛成したのは 5 名、残りの 3 名は景気に対する配慮から据え置きを主張していました。ブラジル中央銀行は、今回の利上げの背景を、経済における相対的な価格調整の強まりによってインフレリスクが高まったためと声明文の中で指摘しています。

ブラジルでは、インフレの上昇に対する懸念が消えていません。9 月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前年同月比で年率 6.75%と中央銀行の目標の上限（6.5%）を上回りました。特に 9 月のインフレ率は 2011 年 10 月に記録した前年同月比で年率 6.97%以来の大幅な上昇でした。ブラジルのインフレ率がブラジル中央銀行の目標値を上回ったのは 2014 年 9 月で 4 ヶ月連続となります。

ブラジル中央銀行は 2013 年 4 月以降、金融の引締めに動いています。この間、ブラジルの市場金利は今回の 0.25%を含めて計 4.00%引き上げられています。一方、ブラジルの景気は低迷し、通貨レアル安や天候不順による物価上昇圧力も根強く残っています。景気低迷の中での利上げは、景気の更なる悪化を招く可能性もあります。また、現職のジルマ・ルセフ大統領が 10 月 26 日に実施された大統領選挙の決選投票で勝利したことで、金融市場では海外投資家による長期投資資金の引揚げも懸念されていました。

ジルマ・ルセフ大統領は大統領選挙で勝利したものの、野党候補者との差は僅差であったことに加え、与党労働党が議会で議席を減らしたこともあり、今後も金融市場に配慮した政策を打ち出すことが期待されます。今回の利上げは、ブラジルがインフレリスクを抑制し、今後の経済成長や投資を促すことを目的とした、金融市場に配慮した政策と考えられます。従って、ブラジル中央銀行は、インフレ率が目標（4.5%±2%）の上限（6.5%）の水準に低下するまで利上げを継続すると予想されます。

＜ブラジル政策金利と実質金利の推移＞
(2003年2月1日～2014年10月29日)



*政策金利：Selicを使用 *実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出 (データ出所：ブラジル中央銀行)

本資料は、BNP パリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解等を提供することを目的として、上記の時点に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。